

# 参考資料Q1-4(1) : 地すべり発生の要因

※技術委員会での議論

地すべりが発生する原因となる代表的な要因を以下に示します。

要因① : 地すべりが発生した斜面の**基盤地質の性状に由来**するもので、岩盤の岩種特性(硬軟・異方性・不均質性など)をはじめ、風化作用や温泉などによる変質作用の発達状況、断層の存在や火山灰等の火山砕屑物の有無などもこの要因に含まれます。

要因② : **斜面地形の性状や形成過程に由来**するもので、斜面の規模や傾斜角度、傾斜の変化傾向(遷緩線や遷急線の配置)などが要因と考えられ、扇状地や段丘地形の分布、関連する河川の流路形状といった特徴も含まれます。加えて斜面の人為的な形状変更による“不安定化”も重要な要因となります。

要因③ : **気象条件に由来**するもので、台風の被害や集中豪雨が頻繁に発生する地域の、短期・累積の降水量の増大や、積雪寒冷地での融雪条件などが主要な要因となります。

要因④ : **地震動の作用に由来**するもので、震度4程度以上の大地震が要因となります。

要因①～④に加えて、これらの様々な要因が複合した場合で、厚い風化殻の形成、斜面を覆う厚い崖錐堆積物や周氷河性堆積物の分布、あるいは古期地すべりの移動体や土石流堆積物の存在などが指摘されます。